

【第5会場：4S04教室（14）】

団体名：公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）



私たち HICE(ハイス)は、1982年に設立され、1991年に財団法人として改組、2010年に公益財団法人へと移行し現在に至っています。2008年には総務省より地域国際化協会の認定を受け、中間支援組織として行政と民間の橋渡しを行ってきました。

浜松には、世界に展開する企業が多数立地するとともに、77ヶ国、約2万1千人もの外国人市民が暮らしています。そのほか、日本国籍で外国人を親に持つ人、海外で生まれ育った人、海外で生活していた人など外国とつながる人が数多く住んでいます。多様な市民とともに、お互いを認め合い、ともに生き、新しい社会をつくっていくこと。さらに、それぞれがこの地域の一員であるとの自覚をもち、地域社会に貢献していくこと。私たち HICE は、真にグローバルな地域社会を目指して活動しています。

メンタルヘルス相談

ブラジル人の心理士2名を常駐し、心理相談や精神科への同行通訳を行っています。

(浜松市精神保健福祉センター委託事業)

外国人コミュニティ支援

ブラジル、フィリピン、ペルーなど在住外国人コミュニティの自主的な活動を支援しています。

日本語教育関連

子ども教育支援

外国人学習支援センター

外国人住民を対象に、基礎～初級レベルの日本語教室を年間837時間開催しています。その他、ボランティア養成講座や、地域日本語学習支援、不就学ゼロ作戦事業等、子どもから大人までの、総合的な学習支援を行っています。

多言語相談

地域共生事業

多文化共生センター

国際理解教育関連セミナー

JICA や市民団体と共催でセミナーを開催。その他、学校や公民館に出前講座を行っています。

各種交流イベント

領事館や大使館、市民団体との共催などで様々な文化・交流イベントを開催しています。



グローバルフェア

年に一度の国際理解の一大イベント。音楽や踊りの舞台やワールドマーケットなどが楽しめます。



在住
外国人支援

国際
交流・理解



市民
活動支援

情報提供

多文化共生・国際交流推進事業補助金

多文化共生・国際交流の活動に対し、補助金を出しています。

ボランティアバンク

7つの分野でボランティアが活躍しています。
地球人教育／通訳・翻訳／言語・文化紹介／
ホームステイ／情報カウンター／日本語教師／
イベント 延べ1,023人登録

ボランティア研修

災害時の際に役立つ「やさしい日本語」や通訳研修、小学校の外国語活動での英語教育ボランティア研修などを行っています。

ソーシャルワーク研修

外国人相談に係る人材の育成などを行っています。

情報誌

HICE NEWS

(日本語・ポルトガル語・英語)



ホームページ

<http://www.hi-hice.jp/index.php>



FACEBOOK

<https://www.facebook.com/hice.jp>

情報カウンターの設置

事業実施概要

事業名称	浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム(HAJAC システム)普及事業			
地域の課題	<p>浜松市における外国人住民の在留資格別統計によると、永住者 51%、特別永住者 4%、定住者 20%、日本人の配偶者等 8%と計 83%の外国人住民が定住や永住する資格を所持していることが明らかであり、このことから日本への永住化が進んでいることが読み取れる。日本にとどまり根付くことを決めた彼らに対して今後必要とされる日本語学習支援は、<u>自立した生活を日本で営むための日本語力を養うこと</u>であると考え。そのためには、学習者自らによる日本語学習の継続や自律学習への動機付けが必要であり、<u>日本語学習支援過程において自身の日本語能力に気づききっかけとなるような評価システムが地域全体で必要だと考える。</u></p>			
事業の目的	平成 24 年度文化庁委託事業「浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業」で開発した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システムの普及を目指す。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム普及検討委員会	名称	浜松版日本語コミュニケーション能力評価基準専門部会
	内容	浜松市内の主要日本語学習支援団体、一般財団法人日本国際協力センターに参画を呼びかけ、各教室の対象レベルを HAJAC 評価基準を活用して見える化する。	内容	浜松市外国人学習支援センターやその他の教室に通う学習者を対象に HAJAC テストを試行し、テストの改善を行う。また、テストデータから課題を確認し、学習プログラムの見直しを行う。
	対象	With U-Net、にほんご NPO、ジャボラ NPO、一般財団法人日本国際協力センター	対象	H24 文化庁委託「浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム策定事業」ワーキンググループメンバー
	時間	1 回 2 時間×2 回(全 4 時間)	時間	1 回 3 時間×11 回(全 33 時間)
	人数	11 人	人数	7 人 (HAJAC テスト受験者 127 人)
	取組3		取組4	
	名称	社会参加のための日本語教室「ていねいな日本語」	名称	日本語教育シンポジウム「生活者としての外国人に必要な日本語とは～日本語コミュニケーション能力評価の可能性～」
	内容	浜松市外国人学習支援センターより高いレベルの日本語教室を設置し、学習者のニーズを探るとともに、継続して日本語学習ができる環境整備を図る。	内容	HAJAC システムを開発した目的や経緯、実践事例を踏まえながら活用方法について発表。パネルディスカッションでは、永住化が進む外国人が社会参加するときに求められる日本語能力やそのための日本語教育の必要性を訴える。
	対象	生活者としての外国人	対象	地域日本語教育に携わる日本語教師、ボランティア、集住都市関係者、地域住民
時間	1 回 2 時間×34 回(全 68 時間)	時間	6 時間	
人数	51 人	人数	100 人	
連携体制	地域日本語学習支援団体、外国人保護者の会、一般財団法人日本国際協力センター、ハローワーク、浜松市、葬儀会社			
成果と課題	<p>昨年度開発した HAJAC システムを、浜松市外国人学習支援センターにおいて運用しながら、改善を行うことができた。基準が統一されたことにより、客観的に評価を示すことができるようになり、学習者が持つ教師に対する信頼感の向上につながったと感じている。</p> <p>評価基準やそのテスト方法といった具体物を使って他団体と話し合いができたため、それぞれの団体でどう活用できるか否か、また共有化するための課題は何か等、普及に向けて具体的なヒントを得ることができた。市全域の日本語教育環境整備という大きな目標に向かって第一歩が踏み出した。</p> <p>また、基準表をもとに、浜松市外国人学習支援センターより上のレベルの外国人に対し、日本語教室を設置したところ、想定以上の申し込みがあった。日本語学習に対する多様なニーズを把握することができた。</p> <p>上記取り組みの結果をシンポジウムで発表することができた。市内や近隣地域の日本語教育関係者をはじめ、集住都市の行政担当者、国際交流協会職員らの参加も得ることができ、評価システムを開発した経緯、その目的・効果について広く知らせることができた。</p>			
発表者から一言	HAJAC システムの活用事例やその効果についてお知らせします。評価を取り入れることによって、学習者のみならず日本語教師やコーディネーターにとっても大きな気づきがありました。評価というと人をジャッジするための手段というイメージがありますが、逆にエンカレッジもできると信じています。当日は、シンポジウムで配布した資料を持参しますので、ぜひ意見をお聞かせください。			